

VIVID LETTER

第三者評価を受審して	1
虐待防止の更なる推進に向けて	
研修報告	2
各事業所報告	3
ひとこと通信/今回のいちおし	4



“VIVID”は
高次脳機能障
がい者の社会
参加を支援す
る特定非営利
活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID(ヴィヴィ)
〒161-0033
新宿区下落合 4-20-16 ヲレ目白 103
TEL : 03-5849-4831 FAX : 03-6908-3364
Eメール hbd-vivid@vivid.or.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>
発行責任者 北村とし子

第三者評価を受審して

フレッシュスタート目白(以下フレスタ)は、今年度「福祉サービス第三者評価」を受審しました。

全国社会福祉協議会のホームページによると、福祉サービス第三者評価とは「質の高い福祉サービスを事業者が提供するために、保育所、指定介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、障害者支援施設、社会的養護施設などにおいて実施される事業について、公正・中立な第三者機関が専門的・客観的な立場から評価を行う仕組み」とあります。

良い点、不足している点とも評価結果として出るので、事業所としてはより良いサービス提供のための指針となります。また結果は公表されるので、利用者側からはサービス事業者を選ぶ際の目安になります。

ちなみに、行政が行う検査・監査は、法令遵守されているかどうか問題点を指摘するもので、第三者評価とは性質が異なるものです。

フレスタが前回受審した 2019 年は利用者サービスへの評価のみでしたが、今回は「組織マネジメント項目」も評価をしてもらいました。評価者からの講評によると「NPO 法人で組織マネジメントまで受審するのは珍しい」そうです。確かに評価項目が増えるので大変ではありましたが、小さな組織だからこそ職員全員で組織のありよ

フレッシュスタート目白
管理者 遠藤 伸



2019 年度に初めて受審したときの受審済みステッカー(左)を、リユースショップ入口に貼っています

うを振り返る良い機会になったと思います。

評価項目はさまざまあるのですが、とりわけ気になるのは「利用者調査結果」でした。普段のサービス状況を一番わかっているのは利用者なので、緊張します。結果的には、嬉しいことに利用者から高評価をいただきました。これも日々現場に出ている職員の頑張りだと感じています。

改善が期待されると指摘を受けた点に「『アセスメントシート書式』が個別支援計画と連動するものになっていない」というものがありました。この書式はある自治体がモデル書式として提示していたものを使用しているのですが、ほぼそのまま使っていたのでフレスタの実際とは合致していなかったのだと思います。障害者福祉サービスに求められる書類、書式は数多くあり、それらを揃えるためについて提示されたモデル書式に頼ってし

まうのですが、本来は事業所で行うサービスに合わせて作り変えていかなければなりません。

次回受審までに、「制度上必要だから書式を揃える」のではなく、それらを「フレスタのサービスに活かせるもの、必要なもの」へとブラッシュアップしていきたいと考えています。

「福ナビ」と入力して検索する。



結果はこちらからご覧になれます

虐待防止の更なる推進に向けて

「障害者虐待防止の更なる推進(厚労省)」で、さまざまな義務化が順次進んでいます。2022年度、VIVIDは「虐待防止・身体拘束等適正化委員会」「身体拘束等の適正化のための指針」を設置・策定しました。これらは、法人内の事業すべてに適用するものです。

同指針では、基本的な考え方を、各人の人格を尊重するというVIVIDの理念を踏まえ「身体拘束は、利用者の行動の自由を制限し、人格と個性の尊重を阻むものである。…身体拘束等を行わないことを原則とする。」としました。

VIVIDでは、虐待やハラスメントは見過ごさないことを、常日頃より心がけています。小さな事業

所でスタッフの人数も少ないことから、お互いに気づいたことを指摘しあえる関係があり、虐待防止に寄与していると自負しています。しかしながら、ふとした言動が、虐待なのか、そうでないのかと悩むことも多いです。ですが、この「悩む」ということは、「虐待」へのセンサーが作動しているということでもあります。自らの言動に対し自省する感性を大事にしながら、研修はもとより、日々の振り返りや同委員会での事例検討を通し、更なる虐待防止を進めていきます。

指針全文は、右のQRコードでご覧ください。

(事務局長:金尾敏恵)



研修実施報告

東京都社会福祉協議会の講師派遣事業を利用し、小原俊治さんを講師に「面談・相談の心得と技法を学ぶ～『聴く力』は大きい～」を全職員で受講しました。

面談・相談の場や支援の場では信頼感の構築がかかせない。その土台となるのが傾聴で、傾聴スキルを使用することで効果が最大化されるというお話でした。そのスキルを、演習を交えながら学びました。

傾聴の基本的態度は来談者中心であるよう、「共感的理解(共感)」「自己一致」「無条件の肯定的配慮(受容)」が必用ということで、ひたすら相手が話すことを認める態度で聴くために、最初はメモをとらない、といった細かいことにも言及して

いただきました。

来談者との信頼感の構築には、傾聴の技法を駆使し、しっかり傾聴していくことが肝心ということでした。相談に来られる方は、困っている、どうしたらよいかわからないという方だと思います。話すことで、言葉になっていなかった感情を表出させ、いろいろなことが整理でき、次への道につながれば、話をしてよかったと思われるのではないかと感じました。

あいづち、くり返しはすぐにできても、良いタイミングでポイントを押さえた要約を入れ、次に進む質問をするなどの技法は高度で、なかなか険しい道のりだけど、これしかないのだと実感させられた研修でした。(相談支援専門員:太田三枝子)

就労継続支援 B 型事業所 フレッシュスタート目白

フレスタの活動風景をお届けします。(管理者:遠藤伸)



創作活動

月に1度の創作活動。
12月には、トイレトーパーの芯を利用してオーナメント作りをしました。



焙煎所見学

コーヒー豆選別の請負作業をもらっている「7 beans coffee」の焙煎所に見学に行きました。自分たちが選別した豆が焙煎されているのを見るとモチベーションが上がりますね。

ご購入いただいた自主製品の刺し子を額に飾って(写真左)のおもてなしに感動でした。



共同バザール

新宿区内の障がい者施設が集まって自主製品販売をする「新宿区内障害者施設共同バザール」に出店しました。コロナの影響で2年ぶりの開催です。

やはり、外部出店できると、モチベーションが上がりますね。メンバーも売り子として活躍してくれました。



障害者作品展

四谷区民センターで行われた作品展に、「夢」と題して利用者全員が取り組んだ共同作品(写真手前)を出展。他にも有志数人が個人の作品(写真奥側)を出展しました。外出企画で、見学にも行き、他の事業所の作品も見学しました。



高次脳機能障害相談支援 VIVID

のぞまれる 障がい理解の溝を埋める手立て

高次脳機能障がい、と一口にいても障がいの種類や程度はさまざま。その上年齢、生活歴も違います。将来についても、生活環境や希望される生活スタイルはさまざまです。

身体的な障がい状況は、当人も理解しやすいのですが、高次脳機能障がいは、ご自分の障がいや、その程度を理解されていないことも多く、本人と家族などで「困りごと」の感じ方も大きな違いがあったりします。また、ご家族でもかかわり方の違いで受け止め方が大きく違うこともあります。

そのような状況の中で相談がスタートします。例えば、足の調子がよくなったので会社に行けるという本人と、記憶障がいや段取りができないので仕事は無理というご家族と、障がいのことが良く分からない職場、の間には齟齬が生じてしまいます。

いろいろな受け皿・支援の制度があれば、この齟齬を減らせるのではないかと思います。

(管理者・相談支援専門員:太田三枝子)

ひとこと通信

フレッシュスタート目白（フレスタ）の利用者さんのコーナーです。

フレッシュスタート目白に通所するようになり、1年以上が経ちます。最初に見学に来た時に賑やかな雰囲気には惹かれました。作業は楽しいです。ビーズ作業では、マスクチェーンを作っています。ビーズ作業を始めるのには抵抗はなく、取り組み始めました。色の配色に思い入れは特になく、ある色で配色しています。赤、緑、黄色があると作りやすいです。自分が作ったマスクチェーンが売れたと話があると嬉しいです。ガッツポーズ！

請負作業の一つに、コーヒー豆の選別作業があります。焙煎前の生豆の状態のものを、割れた豆、虫食いなどの豆に選り分ける作業もおもしろいです。一度は問題ない豆として分けた豆も、再度見直すと割れた豆が見つかる場所がおもしろいと感じます。

以前、依頼主の焙煎所に見学に行きましたが、もう一度行きたいです。依頼主からコーヒー豆を買うことがあるので楽しみにしています。

フレッシュスタート目白にはリユースショップがあります。高校生の時に喫茶店でアルバイトをしたときに接客の経験があります。リユースショップの接客で、心がけていることはなるべく丁寧に接したいと思っています。



今後やっていきたいことは特にありませんが、引き続きフレッシュスタート目白で活動していきたいです。

(市川雷蔵(仮名))

接客中の雷蔵さん(上)。雷蔵さん作のマスクチェーンはどれもカラフルです(右)



ご寄付の報告

この紙面を使って、ご寄付の報告を行っています。

●VIVID へのご寄付

VIVID LETTER 前号の報告後・2022年8月1日～2023年1月31日までにいただいた寄付金の合計は、延べ14人、232,500円でした。生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合のイベントに、フレスタの活動報告で参加したことがきっかけでつながった方からの寄付があり、活動でつながることをありがたく感じました。

●フレッシュスタート目白へのご寄付

フレスタは、毎日、たくさんの品物をご寄付いただいています。特に10～12月は、異例の多さでした。

8月87件、9月123件、10月177件、11月190件、12月179件、1月101件でした。

ご寄付のお願い

ご協力はいつでも受け付け中！
よろしく願います。

【銀行口座への振込の場合】

三井住友銀行 国立支店 普通 7854639
ゆうちょ銀行 記号 10130 番号 91768901
他金融からのお振込みの場合
店名 〇一八(ゼロイチハチ) 店番 018
普通 9176890

【郵便振替口座への振込の場合】

郵便振替口座 00130-7-780312
名義・加入者名はいずれも特定非営利活動法人 VIVID

今回のフレスタいちおし 5周年記念セール

なんと！早いものでフレスタ開設から4月1日で、丸5年です。—というわけで、今回のいちおしは品物でなく、5周年記念・全品半額セールです。

セール 4月3日(月)～7日(金)10:30-16:00
4月8日(土)12:30-16:00

年2回の全品半額セールを心待ちにしているお客さまも多く、もはやこの界隈の風物詩?!

通常は平日のみの営業ですが、4月8日の土曜日にもリユースショップを営業し、平日ここで何をしているか知らない方々にも、福祉事業所の存在をアピールできるといいな～という企画です。

8日11:00～は、作業室で、5年間の振り返りのスライド上映などを行うイベントも行います。

このLETTERの読者のみなさまも、土曜日なら出かけられる！という方がいらしたら、ぜひご来店ください。

編集後記

「3年は続けてください」とフレスタ開所手続きの際に、都の担当に言われた。不安ながらも「何とかなるさ」の精神でスタート。毎日が事件の日々であつと言う間の5年。居場所的就労の場が維持でき感慨深い。みなさまに感謝です。(金尾)